

③ リハーサル

スキルを先生や友達を相手にして実際に練習します。主にロールプレイングの手法が用いられます。

④ フィードバック

リハーサルの際の行動や反応を振り返り、それが適切であれば褒め、不適切であれば適切な行動を伝えます。

⑤ 般化

教えたスキルが指導場面以外のどのような場面(時、人、場所)にでも発揮できるように実際に練習してもらいます。

今回、受講してきた研修の中で実際の支援現場で利用できるものをご紹介します。

群馬県藤岡市、富岡市を圏域にして事業展開を行っている就労・生活支援センタートータス(以後トータス)では、SSTを活用した就労支援として、2つのパターンのSSTを使って相談者の支援を行っている実践報告がありました。

一つ目は「こころの教室」というプログラムです。

このプログラムは1ヶ月に2回開催されているとのことでした。プログラムを受講する前に実際のプログラムの様子を見てもらい、希望される場合には参加してもらおう形を取っているということです。プログラムを受講するメンバーとしては、施設利用をしていない、地域生活をされている在宅の方が中心となっています。日中活動をされていないので、在宅の方は孤立しがちになります。お互いに同じように困っていることや悩みを話すことができることにより、訓練を共にし、変わることができることが人気になっているとのことでした。このプログラムでのSSTの時の主な話題としては、就職のことや障がいオープンにするかしないか、人間関係について、服薬管理などが多いということです。

二つ目は「施設連携」というプログラムです。

このプログラムは、圏域内の精神科デイケア、地域活動支援センター、就労移行訓練、就労継続B型、企業などに赴き、職員をサポートする形でSSTを開催しているということです。

これら二つのプログラムでのSSTの効果と必要性として次の事を挙げられていました。

- ・SSTを取り入れることで、これまで支援者側にありがちだった、「〇〇できないから就職できない」と利用者や社会の状況を理由にすることがなくなった。
- ・利用者のできることを評価し更によくなってもら

- うことを考えることができるようになりました。
- ・支援者もSSTを受けることで、前向きに変化することができるようになりました。

今回の研修を受講して、非常に役に立つ内容のものもあり、SSTへの理解がとて深まりました。今後は支援の役に立てるように、実際に現場で取り組もうと思います。ただ、SSTは1人ではできません。職場の同僚にも働きかけて、SSTの考え方を学んだり、実際の取り組みを行ってもらうことで、支援者が障がい者に対する見方や接し方にも変化が出てくると思うので、SSTの学習会を実施して広めていく事ができたらと考えています。



福島区における障がい啓発活動の 取り組みについて

地域福祉の推進を目的としたアクションプランの活動の1つとして、「障がいに関する啓発プロジェクト」が、福島区にはあります。

プロジェクトチームのメンバーは、当事者、保護者、障がい者施設職員等で、構成されており、福島育成園、福島区障がい者相談支援センター職員も、メンバーの一員です。

活動の1つとして、啓発イベントで「障がいってなあに？」があります。野田阪神にあるショッピングセンターウイステのイベント広場で、行われています。今年は、8月23日に実施されました。

集客力のあるショッピングセンターでのイベントは、障がいに関心な一般の方々が、障がいを知るきっかけ作りとなるのがねらいです。

自主製品販売を兼ねた区内の事業所の紹介、障がいを持つ方々のグループの手話コーラス、啓発紙芝居の3部構成となっています。

今回は、その中の啓発紙芝居について、ご紹介します。紙芝居は、現在4作品あります。

①「ゆうくとチューリップ」

自閉症の男の子がクラスの友達と過ごす中で、ともに成長していく物語です。